

学校教育現場の現状について

教育現場において、この基本理念「いのち」「こころ」を輝かせる教育を進めていく上では、教職員が子どもたちと接し、向き合うための十分な時間が必要になると考えます。

しかしながら、近年の社会情勢の急激な変化や、家庭や地域社会の教育力の低下による学校教育への期待の高まり、また保護者やPTA、地域への対応などの様々な課題に適切に対応するため、教職員の業務は複雑・多様化し拡大しています。

そのような状況下で、教職員は子どもたちとふれあい、向き合う時間が少なくなっており、子どもたちが抱えている様々な悩みや問題を見逃しかねない状況が作り出されつつあるということが懸念されています。

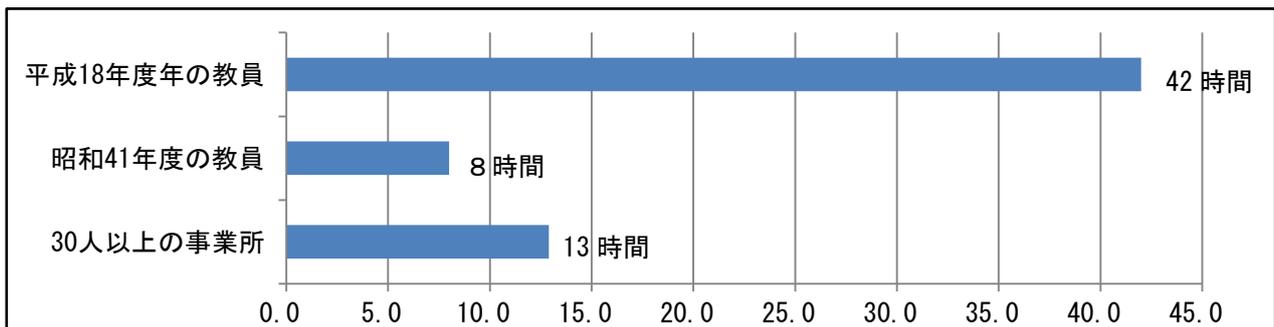
文部科学省「教員勤務実態調査（平成 18 年度調査）」によると、教職員の 1 日当たり勤務時間（勤務日）は 10 時間 22 分、そのうち残業時間は 1 時間 43 分となっています。

1 ヶ月に換算すると約 34 時間、休日を含めると約 42 時間となり、昭和 41 年度の同調査（残業時間：約 8 時間）と比較すると 5 倍強となっています。また、30 人以上の事業所規模の月間所定外労働（約 13 時間）と比較しても、かなりの超過勤務が発生しています。

なお、休憩時間も 1 日 14 分程度とかなり短いという結果が出ています。

【残業時間の比較】

単位：時間

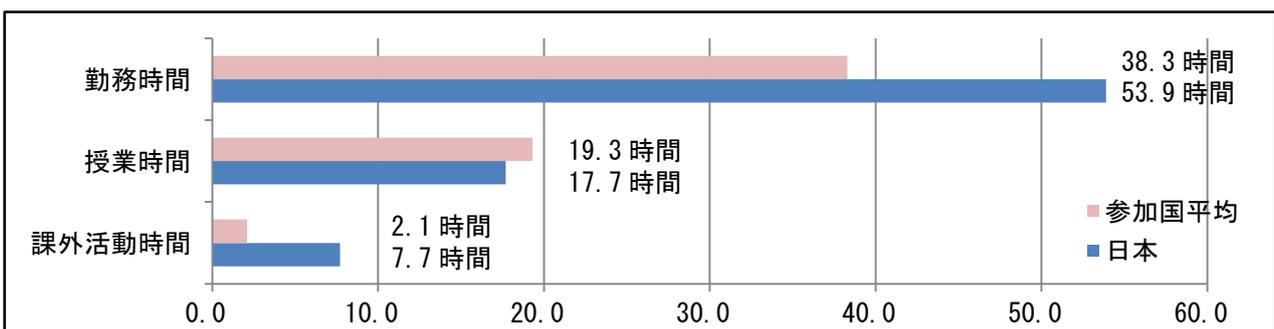


文部科学省「教員勤務実態調査（平成 18 年度調査）」より

また、経済協力開発機構（OECD）「国際教員指導環境調査（平成 25 年）」においては、日本の教職員の勤務時間は最も長い（53.9 時間）が、授業時間は参加国平均と同程度（17.7 時間）であることから、課外活動や事務作業、事業の計画準備などに時間が取られていることが分かります。

【1 週間当たりの勤務時間と授業時間・課外活動時間】

単位：時間



経済協力開発機構（OECD）「国際教員指導環境調査（平成 25 年）」より